新潟・堅木（かたぎ）遺跡

1　所在地　新潟県南魚沼市大字野田字堅木
2　調査期間　二〇〇六年（平18）九月～一二月
3　発掘機関　(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
4　調査担当者　藤巻正信
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　古代～近世以降
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺跡は魚沼丘陵から魚野川に注ぐ小規模河川、庄之又川左岸の扇頂部の狭い河岸段丘に立地する。

（十日町）

調査は二〇〇六年から二カ年にわたって実施し、古代・中世中心の複合遺跡であることが判明したが、近世以降の耕地整理によって、中世の遺構は壊滅していた。

遺跡の主体は九世紀末～一〇世紀初頭で、平安時代の土師器・須恵器少量と、炉四基・溝状遺構多数を検出した。溝状遺構は耕作に関わるものかと思われたが、理科学分析からはその確証が得られなかった。

木簡は、二〇〇六年の調査において、近世以降の耕作土であるⅢ層から四点出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　〔めカ〕
□」　98×26　019

(2)　「小豆四斗入のだ八左ェ門」　200×40　051

(3)　〔りカ〕
□□　(138)×46　081

(4)　〔弐カ〕
□□
壱の□□」　(157)×29　019

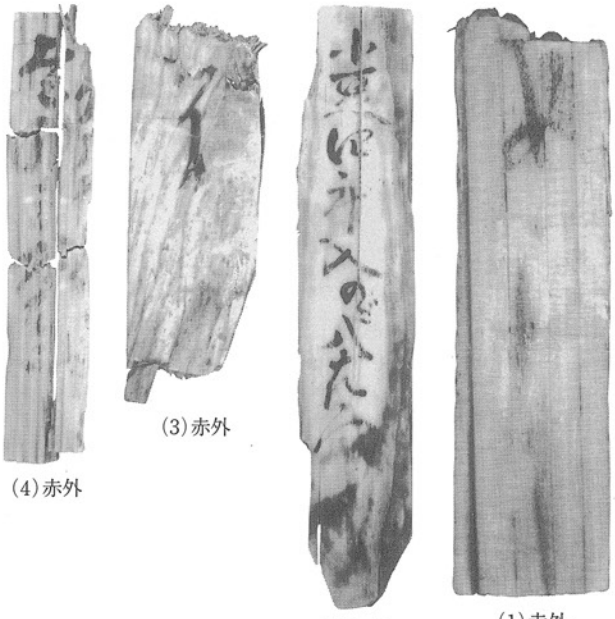
厚さはいずれも未計測。(1)は墨痕が鮮明で肉眼での判読が容易である。「ぬ」の可能性もある。(2)は長方形の材の一端を加工して粗く尖らせる。墨痕は鮮明で肉眼での判読が容易である。「のだ」は当遺跡の所在する大字野田と考えられ、屋号「八左ェ門」は野田集落内に現在も存在しているという。(3)は上下両端が折損、右辺は割れて原形は不明。墨痕は鮮明で肉眼での判読が容易である。(4)は長方形の材が折れて五片が残っている。墨痕はかすれ、肉眼での判読は難しい。

釈読については、田中一穂氏のご教示を得た。木簡の赤外線写真も同氏の撮影による。

9 関係文献

(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成一八年度』(二〇〇七年)

(藤巻正信)



(1)赤外　(2)赤外　(3)赤外　(4)赤外

新潟・近世新潟町跡　広小路堀地点

1 所在地　新潟市中央区上大川前通十番町、本町通十番町、東堀前通九番町

2 調査期間　一　二〇〇四年(平16)七月
二　二〇〇六年六月～一〇月

3 発掘機関　(財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

4 調査担当者　佐藤友子

5 遺跡の種類　港町跡

6 遺跡の年代　近世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

(新　潟)

近世新潟町跡は、明暦元年(一六五五)に現在地に移転したとされる日本海側有数の港湾都市である。遺跡は信濃川河口近くの左岸に立地し、標高は〇・五m。

複数の町屋の屋敷地にまたがるトレンチ調査を行ない、屋敷境の溝、礎石、礎